

最新の治療薬 予防法を解説

安来、認知症学ぶ研修会

認知症の予防や、身近な人が発症した際の周囲の対応を学ぶ研修会「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」が22日、安来市内で開かれた。安来第一病院(同市安来町)の認知症疾患医療センターが主催。日本認知症予防学会理事長で鳥取大医学部の浦上克哉教授が講演し、市民ら約500人に最新の治療薬

最新の治療薬や予防対策を解説する浦上教授。22日、安来市飯島町の市総合文化ホールアルテピア



や予防対策を解説した。

浦上教授は、症状の進行を抑制する薬の開発が進んでいる状況を紹介。進行の抑制率は20〜30%台で「100%に近づけば、根本治

療薬といえる薬になる。小さな一歩かもしれないが、今後に向けて大きな一歩」といい、根本治療の可能性がある「疾患修飾薬」の完成に期待を寄せた。

また、認知症を予防するポイントに、有酸素運動に偏らない「運動」▽頭を使って指先を動かす「知的運動」▽多くの人と話す「コミュニケーション」の三つを提示。患者の家族へ「患者本人が自信を失わないように接することが重要」とし「家族も公的サービスの利用してリフレッシュの時間を作るのが大切」とアドバイスした。

安来市の認知症支援の取り組みなどをテーマにしたシンポジウムもあった。

(足立篤史)